

平成30年度 文部科学省研究開発学校 研究協議会

研究開発課題

幼小一貫教育において

生活と学習をつなぎ、

同年齢や異年齢で協働的に探究を深め、

多様な能力や個性的な才能を引き出す

「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発

平成31年1月15日(火)

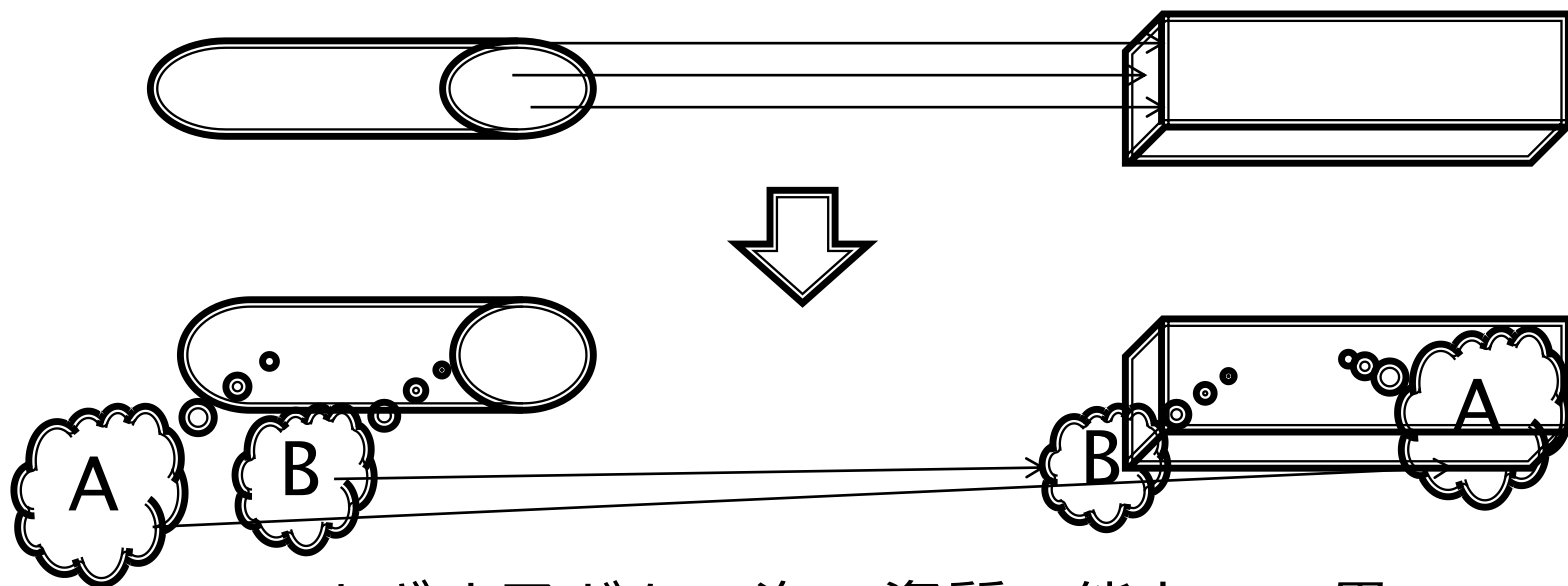
奈良女子大学附属幼稚園

奈良女子大学附属小学校

# 幼小一貫した学び

「幼小一貫」

「おわり」と「はじめ」をつなぐだけではない



めざす子どもの姿、資質・能力の一貫  
－教育観の共有

# 一貫して育てるのは 資質・能力

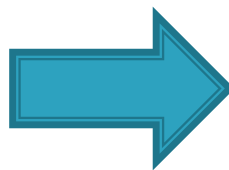
幼児教育における

活動内容

と

各教科

をつなぐ



幼小一貫して

育てたい  
資質・能力

をつなぐ

# 「生活学習力」

多様な能力・個性的な才能

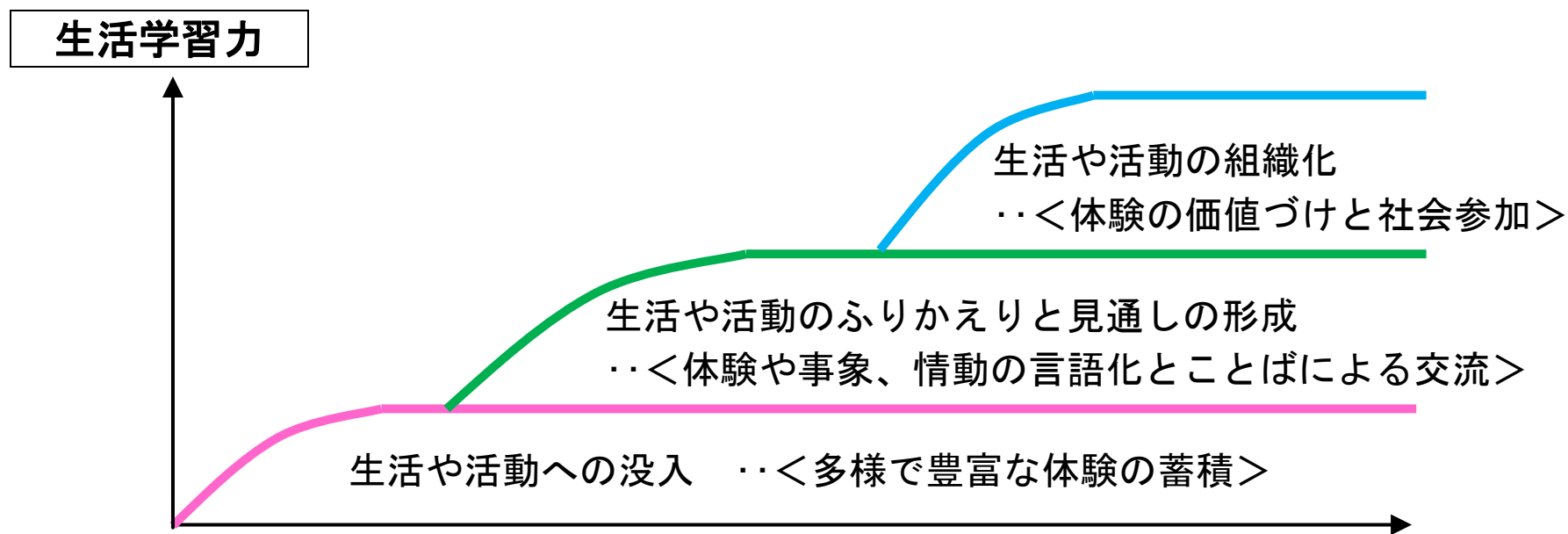
## 生活学習力

生活・体験

活動・学習

- ①社会の一員としての自覚をもって生活を営む力
- ②自分に関連付けて「生活」を見つめる力
- ③課題を解決するためにねばり強く追究する力
- ④周りの人と協働して探究する力
- ⑤自律的に学びを進める力

# 生活学習力の展開と深化



年齢  
区分

3	4	5	6	7	8	9	10	11
初等教育前期		初等教育中期			初等教育後期			

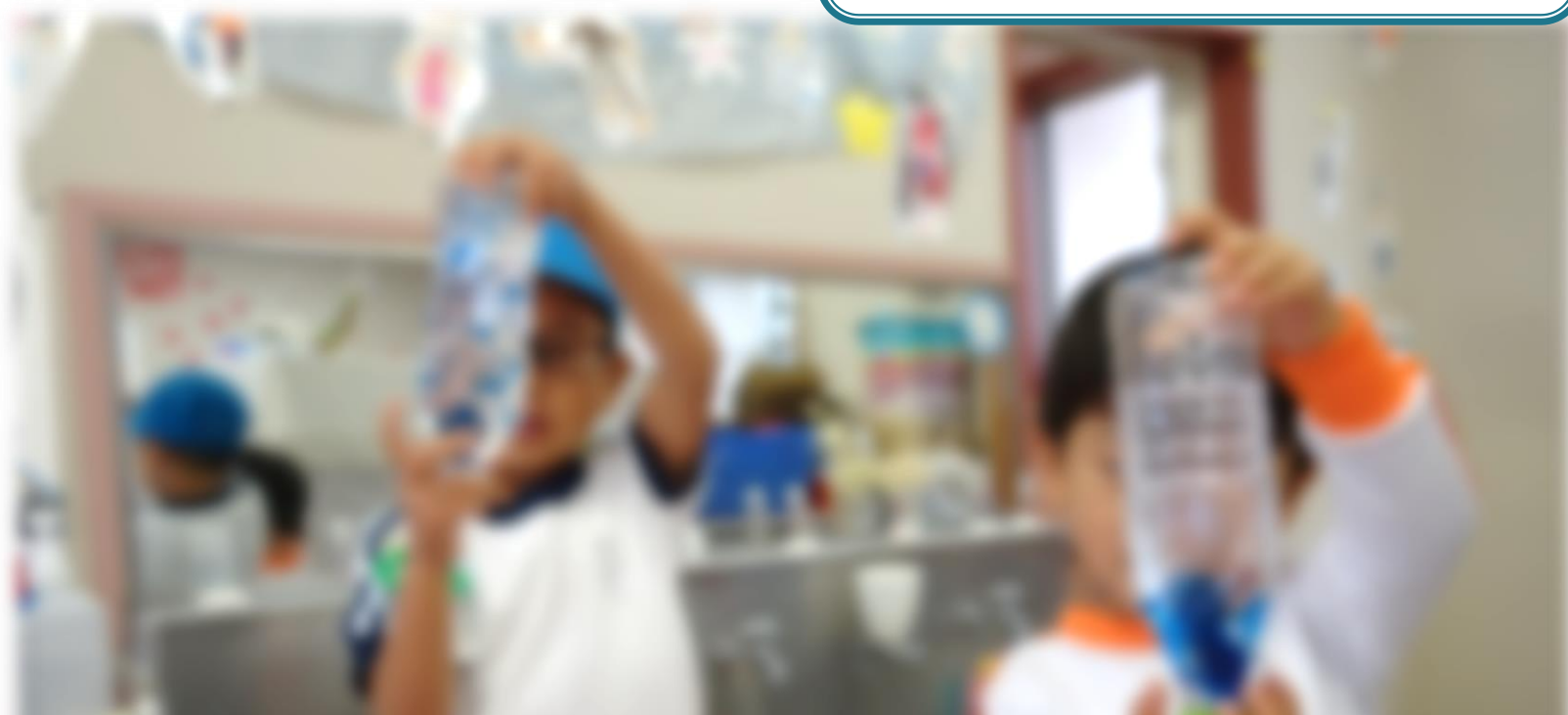
# 9年間の探究の姿

区分	年齢	めざす子どもの姿	学びの源		活動による学び			目的的な学び			年齢	区分	
			生活の仕方	生活圏(範囲)	生活から学習・活動へ	学習・活動	学習・活動から生活へ	学び文化	学習の場の構成	めあてとふりかえり			
初等教育前期	3	・生活の仕方を知り、安定して生活する。 ・多様な体験をしながら諸感覚を働かせ、自己発揮する。	生活そのものをつくる。	家庭 幼稚園 通園路	生活へのかかわりの意志をもつ。 眼前のものへの興味、関心、意欲をもつ。 体験を広げる。	自ら行動し発揮する 「なかよしタイム」 生活学習力	生活の素材に気づく・見つける。 観察する。 直接試す。 探索する。 五感を働かせる。 繰り返す。 夢中になって遊ぶ。 様々な情動を体験する。 様々な表現方法を得る。 人の話を聞く。 友達の良いさを認めて真似る。 友達と同じ目的をもつ。 友達と楽しさを共有する。	生活の素材に気づく・見つける。 自分の学級以外の場所や人の中に居場所を見つける。 行動範囲を広げる。 経験したことを取り出し生活に生かす。 継続して活動しようとする。 時間の感覚をもつ。(さつき、この後)(昨日・今日・明日)	異文化を受け入れ、多様な物事に興味をもって、真似たり、働きかけたりし、友達と共に楽しく活動ができるようになる。 自分とは違う人の中で様々な情動を味わい、折り合いをつけたり共感したりする。	体験の「おしらせ」をする。 友達や学級で活動することで新しい方法や情報を知る。 友達や学級で活動することで、楽しさを感じたり自己調整したりする。	体験を再現する。 体験を言語化する。 今、している活動への思いをもつ。 自分の思いを受けとめてもらう喜びを経験する。	3	初等教育前期
	4	・友達と同じめあてをもち、共に活動することを喜ぶ。	生活に没入する。 直接的なコミュニケーションをとる。	家庭 幼稚園 通園路 眼前の人やモノ	生活の中から、眼前のもの、聞いたこと、過去に見たことへの興味関心をもつ。 さんばに出かける。 モノや素材を収集する。 体験や集めたものを持ち込む。 興味をもったことを繰り返したり探究したりする。(遊び、自由研究) 朝の会や朝の会で生活を語る。 自由研究発表をする。		目的や課題をもって観察する、試す、探索する、工夫する。 問いを解決する方法を考えて試す。 上手いかわなくても一度試す。 比較、分類、整理する。 データや状況を基に考える。 メモや記録を生かしながら、自分の発表を作る。 レポートや劇、制作など、様々な表現で発表する。 言語の交流をする。 相手の立場に立ち理解してもらえように話す。 友達の興味や考えを聞く。 友達の考えと自分の考えを比べる。 目的を意識して、自分の気持ちや言動をコントロールする。 グループの仲間で、仕事を分担したり、自分の立場を感じ、状況に応じて行動したりする。 グループの仲間と共に、調べたことを表現する。	経験から、必要なモノ、ことに気づいたり、選択したりする。 学習、活動をふりかえり、生活に生かす。 友達の発表を基に、多様な自然や社会の出来事に興味を向ける。 自分の発表に関して、再調査、行き直し、調べ直しをする。 さらなる観点で、物事を見直す。 活動の流れを意識して自分の行動を決める。 時間の感覚をもって活動する。(今何時、後何分、後何日)	遊び方、活動の進め方、物の見方、学習のスタイルなどを学ぶ。 自分の興味のあることに集中して取り組んだり、人に伝えたりしながら、探究的に活動する。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 積極的に物事に出会い、言語で表現したり、記録したりする。 仲間と共有する。 生活の中の物事を、多様な表現を活用して、記録したり、伝えたりする。	朝の「元気調べ」で、自分の考えを言葉で表す。 言葉で伝えたり、日記に書いたりすることで、一日一日をふりかえる。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 自由研究発表で、疑問に思ったことを質問し、深め合う。 課題に沿った「おたずね」と「おこたえ」をする。	体験や情動の言語化をする。 その時間のめあてをもつ。 めあてに対してのふりかえりをもつ。 その時間をふりかえり、次のめあてをもつ。 ふりかえりによって、友達の思いや考えを知り、自分と比較する。 他者の意見、行為や事象を関連付けて考える。 前回のふりかえりを受けて、本時のめあてをもつ。 本見のめあてを達成できたふりかえることができる。	4	
初等教育中期	5	・各時間や活動のめあて、見通しをもちながら生活する。 ・生活の中から課題を見つけ、経験を生かしたり友達と協力したりして学習や活動に取り組む。	生活のめあてをもつ。 生活をふりかえる。 時間を意識して生活する。	家庭 幼稚園 通園路 眼前の人やモノ	生活の中から、眼前のもの、聞いたこと、過去に見たことへの興味関心をもつ。 さんばに出かける。 モノや素材を収集する。 体験や集めたものを持ち込む。 興味をもったことを繰り返したり探究したりする。(遊び、自由研究) 朝の会や朝の会で生活を語る。 自由研究発表をする。	目的や課題をもって観察する、試す、探索する、工夫する。 問いを解決する方法を考えて試す。 上手いかわなくても一度試す。 比較、分類、整理する。 データや状況を基に考える。 メモや記録を生かしながら、自分の発表を作る。 レポートや劇、制作など、様々な表現で発表する。 言語の交流をする。 相手の立場に立ち理解してもらえように話す。 友達の興味や考えを聞く。 友達の考えと自分の考えを比べる。 目的を意識して、自分の気持ちや言動をコントロールする。 グループの仲間で、仕事を分担したり、自分の立場を感じ、状況に応じて行動したりする。 グループの仲間と共に、調べたことを表現する。	経験から、必要なモノ、ことに気づいたり、選択したりする。 学習、活動をふりかえり、生活に生かす。 友達の発表を基に、多様な自然や社会の出来事に興味を向ける。 自分の発表に関して、再調査、行き直し、調べ直しをする。 さらなる観点で、物事を見直す。 活動の流れを意識して自分の行動を決める。 時間の感覚をもって活動する。(今何時、後何分、後何日)	遊び方、活動の進め方、物の見方、学習のスタイルなどを学ぶ。 自分の興味のあることに集中して取り組んだり、人に伝えたりしながら、探究的に活動する。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 積極的に物事に出会い、言語で表現したり、記録したりする。 仲間と共有する。 生活の中の物事を、多様な表現を活用して、記録したり、伝えたりする。	朝の「元気調べ」で、自分の考えを言葉で表す。 言葉で伝えたり、日記に書いたりすることで、一日一日をふりかえる。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 自由研究発表で、疑問に思ったことを質問し、深め合う。 課題に沿った「おたずね」と「おこたえ」をする。	体験や情動の言語化をする。 その時間のめあてをもつ。 めあてに対してのふりかえりをもつ。 その時間をふりかえり、次のめあてをもつ。 ふりかえりによって、友達の思いや考えを知り、自分と比較する。 他者の意見、行為や事象を関連付けて考える。 前回のふりかえりを受けて、本時のめあてをもつ。 本見のめあてを達成できたふりかえることができる。	5	初等教育中期	
	6	・相手の立場を思いやりながら、積極的に自分を表現する。 ・お互いの良さを認め、自分たちの生活をよりよくしようとする。	生活や活動の流れを意識して行動する。 学級の一員としての自覚をもって生活する。	家庭 幼稚園 通園路 眼前の人やモノ	生活の中から、眼前のもの、聞いたこと、過去に見たことへの興味関心をもつ。 さんばに出かける。 モノや素材を収集する。 体験や集めたものを持ち込む。 興味をもったことを繰り返したり探究したりする。(遊び、自由研究) 朝の会や朝の会で生活を語る。 自由研究発表をする。	目的や課題をもって観察する、試す、探索する、工夫する。 問いを解決する方法を考えて試す。 上手いかわなくても一度試す。 比較、分類、整理する。 データや状況を基に考える。 メモや記録を生かしながら、自分の発表を作る。 レポートや劇、制作など、様々な表現で発表する。 言語の交流をする。 相手の立場に立ち理解してもらえように話す。 友達の興味や考えを聞く。 友達の考えと自分の考えを比べる。 目的を意識して、自分の気持ちや言動をコントロールする。 グループの仲間で、仕事を分担したり、自分の立場を感じ、状況に応じて行動したりする。 グループの仲間と共に、調べたことを表現する。	経験から、必要なモノ、ことに気づいたり、選択したりする。 学習、活動をふりかえり、生活に生かす。 友達の発表を基に、多様な自然や社会の出来事に興味を向ける。 自分の発表に関して、再調査、行き直し、調べ直しをする。 さらなる観点で、物事を見直す。 活動の流れを意識して自分の行動を決める。 時間の感覚をもって活動する。(今何時、後何分、後何日)	遊び方、活動の進め方、物の見方、学習のスタイルなどを学ぶ。 自分の興味のあることに集中して取り組んだり、人に伝えたりしながら、探究的に活動する。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 積極的に物事に出会い、言語で表現したり、記録したりする。 仲間と共有する。 生活の中の物事を、多様な表現を活用して、記録したり、伝えたりする。	朝の「元気調べ」で、自分の考えを言葉で表す。 言葉で伝えたり、日記に書いたりすることで、一日一日をふりかえる。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 自由研究発表で、疑問に思ったことを質問し、深め合う。 課題に沿った「おたずね」と「おこたえ」をする。	体験や情動の言語化をする。 その時間のめあてをもつ。 めあてに対してのふりかえりをもつ。 その時間をふりかえり、次のめあてをもつ。 ふりかえりによって、友達の思いや考えを知り、自分と比較する。 他者の意見、行為や事象を関連付けて考える。 前回のふりかえりを受けて、本時のめあてをもつ。 本見のめあてを達成できたふりかえることができる。	6		
	7	・お互いの良さを認め、自分たちの生活をよりよくしようとする。	小集団をまとめる意識をもつ。	家庭 幼稚園 通園路 眼前の人やモノ	生活の中から、眼前のもの、聞いたこと、過去に見たことへの興味関心をもつ。 さんばに出かける。 モノや素材を収集する。 体験や集めたものを持ち込む。 興味をもったことを繰り返したり探究したりする。(遊び、自由研究) 朝の会や朝の会で生活を語る。 自由研究発表をする。	目的や課題をもって観察する、試す、探索する、工夫する。 問いを解決する方法を考えて試す。 上手いかわなくても一度試す。 比較、分類、整理する。 データや状況を基に考える。 メモや記録を生かしながら、自分の発表を作る。 レポートや劇、制作など、様々な表現で発表する。 言語の交流をする。 相手の立場に立ち理解してもらえように話す。 友達の興味や考えを聞く。 友達の考えと自分の考えを比べる。 目的を意識して、自分の気持ちや言動をコントロールする。 グループの仲間で、仕事を分担したり、自分の立場を感じ、状況に応じて行動したりする。 グループの仲間と共に、調べたことを表現する。	経験から、必要なモノ、ことに気づいたり、選択したりする。 学習、活動をふりかえり、生活に生かす。 友達の発表を基に、多様な自然や社会の出来事に興味を向ける。 自分の発表に関して、再調査、行き直し、調べ直しをする。 さらなる観点で、物事を見直す。 活動の流れを意識して自分の行動を決める。 時間の感覚をもって活動する。(今何時、後何分、後何日)	遊び方、活動の進め方、物の見方、学習のスタイルなどを学ぶ。 自分の興味のあることに集中して取り組んだり、人に伝えたりしながら、探究的に活動する。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 積極的に物事に出会い、言語で表現したり、記録したりする。 仲間と共有する。 生活の中の物事を、多様な表現を活用して、記録したり、伝えたりする。	朝の「元気調べ」で、自分の考えを言葉で表す。 言葉で伝えたり、日記に書いたりすることで、一日一日をふりかえる。 協同的な遊びや活動を通して役割を担ったりする。 仲間や学級で活動し、新しい見方や考え方を得る。 自由研究発表で、疑問に思ったことを質問し、深め合う。 課題に沿った「おたずね」と「おこたえ」をする。	体験や情動の言語化をする。 その時間のめあてをもつ。 めあてに対してのふりかえりをもつ。 その時間をふりかえり、次のめあてをもつ。 ふりかえりによって、友達の思いや考えを知り、自分と比較する。 他者の意見、行為や事象を関連付けて考える。 前回のふりかえりを受けて、本時のめあてをもつ。 本見のめあてを達成できたふりかえることができる。	7		
初等教育後期	8	・生活の中で疑問に思ったことや調べてみたいと思ったことから課題を見つけ、その課題について、計画的に「独自の探究」を進め、粘り強く解決しようとする。 ・自らの探究について、常に「ふりかえり」と「めあて」をもち、自律的に課題に向き合おうとする。 ・探究で得た成果を、さらなる「生活・体験」に生かし、生活をより深く捉えようとする。 ・異年齢の相互の学び合いを通して、より分かりやすく伝えようとしたおたずねをしたりして、互恵的な学びの深化をはかる。 ・社会の一員としての自覚をもつ。	生活を組織化する。 友だちを尊重する。 社会参加への意欲関心を持つ。	家庭、学校 地域社会への参加 奈良県 近畿圏 日本 世界 歴史文化	自分の生活から問いをたてる。 空間的な広がりや対象に調べる。 歴史的な背景や自然との関連を意識しながら対象に関わる。 世界との関わり、歴史との関わりの中で、物事を捉えるように進める。 予想や見通しをもつ。 計画を立てて調べに行く。 時系列に沿って考える。 仮説をもって、探究をする。 学問体系の中での位置づけをする。	調査研究前の資料を集めてわかりやすく整理する。 対象の変化を歴史的な背景や自然・社会との関連などの中で捉える。 文献調査だけでなく、実地調査やインタビュー、アンケートなどにも力をいれ、比較、分析を行い、まとめる。 表やグラフを、活用する。 比較の中で、自分なりの新しい考えを見出し、考えを述べる。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	物事を進める前に、事前に独自学習を進める力を高める。 資料の整理の方法を身に付ける。 地図や表やグラフなど、積極的に活用する力をつける。 概念・抽象化を引き出す力を付ける。 多角的な視点で研究方法や結果を見つめ直し、多角的な方法で捉え、活用する。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	探究の方法を自分の課題に合うように取り入れる。 複数の物を比較して、相違点や共通点を考え、分類的な認識をもちながら、学習する。 活動範囲が広がり、行動的に資料集めや、整理をしながら学習する。 見通しをもち、資料を集めたり、計画を立てたりしながら学習する。 物事の全体の概念構造を持ち、それをもとにして、自分の考えを述べたり、さらに、概念構造を再構成したりしながら学習する。	「独自の探究」で習得したことを、「相互の探究」で深め合う。 自己内対話の能力が高まり、「独自の探究」のノアに深まりが見られる。 メタ認知の高まりとともに、他者の考えを仮想し、自ら応答を試みる。 「独自の探究」の深まりとともに「相互の探究」が深まる。 探究的な協働研究を獲得し、学びの組織の運営を行う。	中長期的にめあてをたてることができる。 めあてに対応するふりかえりが考えられるようになる。 前時のふりかえりと連動しためあてをたてることができるようになる。 ふりかえりが自己や集団の学習の進捗や評価を表すものになる。	8	初等教育後期	
	9	・探究で得た成果を、さらなる「生活・体験」に生かし、生活をより深く捉えようとする。 ・異年齢の相互の学び合いを通して、より分かりやすく伝えようとしたおたずねをしたりして、互恵的な学びの深化をはかる。 ・社会の一員としての自覚をもつ。	友だちを尊重する。 社会参加への意欲関心を持つ。	家庭、学校 地域社会への参加 奈良県 近畿圏 日本 世界 歴史文化	自分の生活から問いをたてる。 空間的な広がりや対象に調べる。 歴史的な背景や自然との関連を意識しながら対象に関わる。 世界との関わり、歴史との関わりの中で、物事を捉えるように進める。 予想や見通しをもつ。 計画を立てて調べに行く。 時系列に沿って考える。 仮説をもって、探究をする。 学問体系の中での位置づけをする。	調査研究前の資料を集めてわかりやすく整理する。 対象の変化を歴史的な背景や自然・社会との関連などの中で捉える。 文献調査だけでなく、実地調査やインタビュー、アンケートなどにも力をいれ、比較、分析を行い、まとめる。 表やグラフを、活用する。 比較の中で、自分なりの新しい考えを見出し、考えを述べる。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	物事を進める前に、事前に独自学習を進める力を高める。 資料の整理の方法を身に付ける。 地図や表やグラフなど、積極的に活用する力をつける。 概念・抽象化を引き出す力を付ける。 多角的な視点で研究方法や結果を見つめ直し、多角的な方法で捉え、活用する。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	探究の方法を自分の課題に合うように取り入れる。 複数の物を比較して、相違点や共通点を考え、分類的な認識をもちながら、学習する。 活動範囲が広がり、行動的に資料集めや、整理をしながら学習する。 見通しをもち、資料を集めたり、計画を立てたりしながら学習する。 物事の全体の概念構造を持ち、それをもとにして、自分の考えを述べたり、さらに、概念構造を再構成したりしながら学習する。	「独自の探究」で習得したことを、「相互の探究」で深め合う。 自己内対話の能力が高まり、「独自の探究」のノアに深まりが見られる。 メタ認知の高まりとともに、他者の考えを仮想し、自ら応答を試みる。 「独自の探究」の深まりとともに「相互の探究」が深まる。 探究的な協働研究を獲得し、学びの組織の運営を行う。	中長期的にめあてをたてることができる。 めあてに対応するふりかえりが考えられるようになる。 前時のふりかえりと連動しためあてをたてることができるようになる。 ふりかえりが自己や集団の学習の進捗や評価を表すものになる。	9		
	10	・探究で得た成果を、さらなる「生活・体験」に生かし、生活をより深く捉えようとする。 ・異年齢の相互の学び合いを通して、より分かりやすく伝えようとしたおたずねをしたりして、互恵的な学びの深化をはかる。 ・社会の一員としての自覚をもつ。	友だちを尊重する。 社会参加への意欲関心を持つ。	家庭、学校 地域社会への参加 奈良県 近畿圏 日本 世界 歴史文化	自分の生活から問いをたてる。 空間的な広がりや対象に調べる。 歴史的な背景や自然との関連を意識しながら対象に関わる。 世界との関わり、歴史との関わりの中で、物事を捉えるように進める。 予想や見通しをもつ。 計画を立てて調べに行く。 時系列に沿って考える。 仮説をもって、探究をする。 学問体系の中での位置づけをする。	調査研究前の資料を集めてわかりやすく整理する。 対象の変化を歴史的な背景や自然・社会との関連などの中で捉える。 文献調査だけでなく、実地調査やインタビュー、アンケートなどにも力をいれ、比較、分析を行い、まとめる。 表やグラフを、活用する。 比較の中で、自分なりの新しい考えを見出し、考えを述べる。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	物事を進める前に、事前に独自学習を進める力を高める。 資料の整理の方法を身に付ける。 地図や表やグラフなど、積極的に活用する力をつける。 概念・抽象化を引き出す力を付ける。 多角的な視点で研究方法や結果を見つめ直し、多角的な方法で捉え、活用する。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	探究の方法を自分の課題に合うように取り入れる。 複数の物を比較して、相違点や共通点を考え、分類的な認識をもちながら、学習する。 活動範囲が広がり、行動的に資料集めや、整理をしながら学習する。 見通しをもち、資料を集めたり、計画を立てたりしながら学習する。 物事の全体の概念構造を持ち、それをもとにして、自分の考えを述べたり、さらに、概念構造を再構成したりしながら学習する。	「独自の探究」で習得したことを、「相互の探究」で深め合う。 自己内対話の能力が高まり、「独自の探究」のノアに深まりが見られる。 メタ認知の高まりとともに、他者の考えを仮想し、自ら応答を試みる。 「独自の探究」の深まりとともに「相互の探究」が深まる。 探究的な協働研究を獲得し、学びの組織の運営を行う。	中長期的にめあてをたてることができる。 めあてに対応するふりかえりが考えられるようになる。 前時のふりかえりと連動しためあてをたてることができるようになる。 ふりかえりが自己や集団の学習の進捗や評価を表すものになる。	10		
	11	・探究で得た成果を、さらなる「生活・体験」に生かし、生活をより深く捉えようとする。 ・異年齢の相互の学び合いを通して、より分かりやすく伝えようとしたおたずねをしたりして、互恵的な学びの深化をはかる。 ・社会の一員としての自覚をもつ。	友だちを尊重する。 社会参加への意欲関心を持つ。	家庭、学校 地域社会への参加 奈良県 近畿圏 日本 世界 歴史文化	自分の生活から問いをたてる。 空間的な広がりや対象に調べる。 歴史的な背景や自然との関連を意識しながら対象に関わる。 世界との関わり、歴史との関わりの中で、物事を捉えるように進める。 予想や見通しをもつ。 計画を立てて調べに行く。 時系列に沿って考える。 仮説をもって、探究をする。 学問体系の中での位置づけをする。	調査研究前の資料を集めてわかりやすく整理する。 対象の変化を歴史的な背景や自然・社会との関連などの中で捉える。 文献調査だけでなく、実地調査やインタビュー、アンケートなどにも力をいれ、比較、分析を行い、まとめる。 表やグラフを、活用する。 比較の中で、自分なりの新しい考えを見出し、考えを述べる。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	物事を進める前に、事前に独自学習を進める力を高める。 資料の整理の方法を身に付ける。 地図や表やグラフなど、積極的に活用する力をつける。 概念・抽象化を引き出す力を付ける。 多角的な視点で研究方法や結果を見つめ直し、多角的な方法で捉え、活用する。 自分の研究の位置づけを理解しながら、自分の考えを述べる。 調査研究をまとめて、発表する。 自分の考えをもって試行する。 様々な観点に気づき、柔軟に考える。	探究の方法を自分の課題に合うように取り入れる。 複数の物を比較して、相違点や共通点を考え、分類的な認識をもちながら、学習する。 活動範囲が広がり、行動的に資料集めや、整理をしながら学習する。 見通しをもち、資料を集めたり、計画を立てたりしながら学習する。 物事の全体の概念構造を持ち、それをもとにして、自分の考えを述べたり、さらに、概念構造を再構成したりしながら学習する。	「独自の探究」で習得したことを、「相互の探究」で深め合う。 自己内対話の能力が高まり、「独自の探究」のノアに深まりが見られる。 メタ認知の高まりとともに、他者の考えを仮想し、自ら応答を試みる。 「独自の探究」の深まりとともに「相互の探究」が深まる。 探究的な協働研究を獲得し、学びの組織の運営を行う。	中長期的にめあてをたてることができる。 めあてに対応するふりかえりが考えられるようになる。 前時のふりかえりと連動しためあてをたてることができるようになる。 ふりかえりが自己や集団の学習の進捗や評価を表すものになる。	11		



# なかよしタイム

3・4・5歳児



3・4・5歳児の子ども達が  
いろいろな環境や友達とのかかわりの中で  
自己発揮し、友達と力を合わせたり  
探究したりする楽しさを味わう。

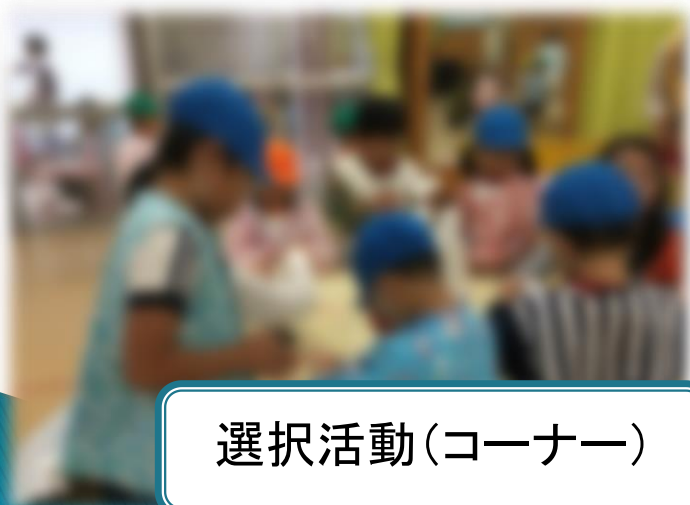
# なかよしタイム 1日の生活



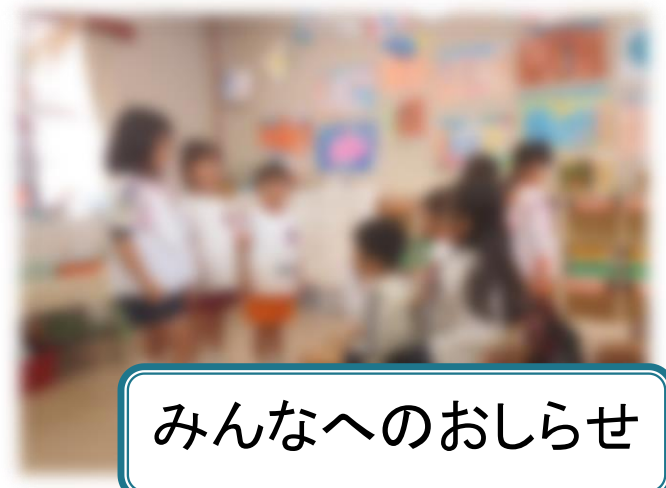
学級全体活動



間食



選択活動(コーナー)

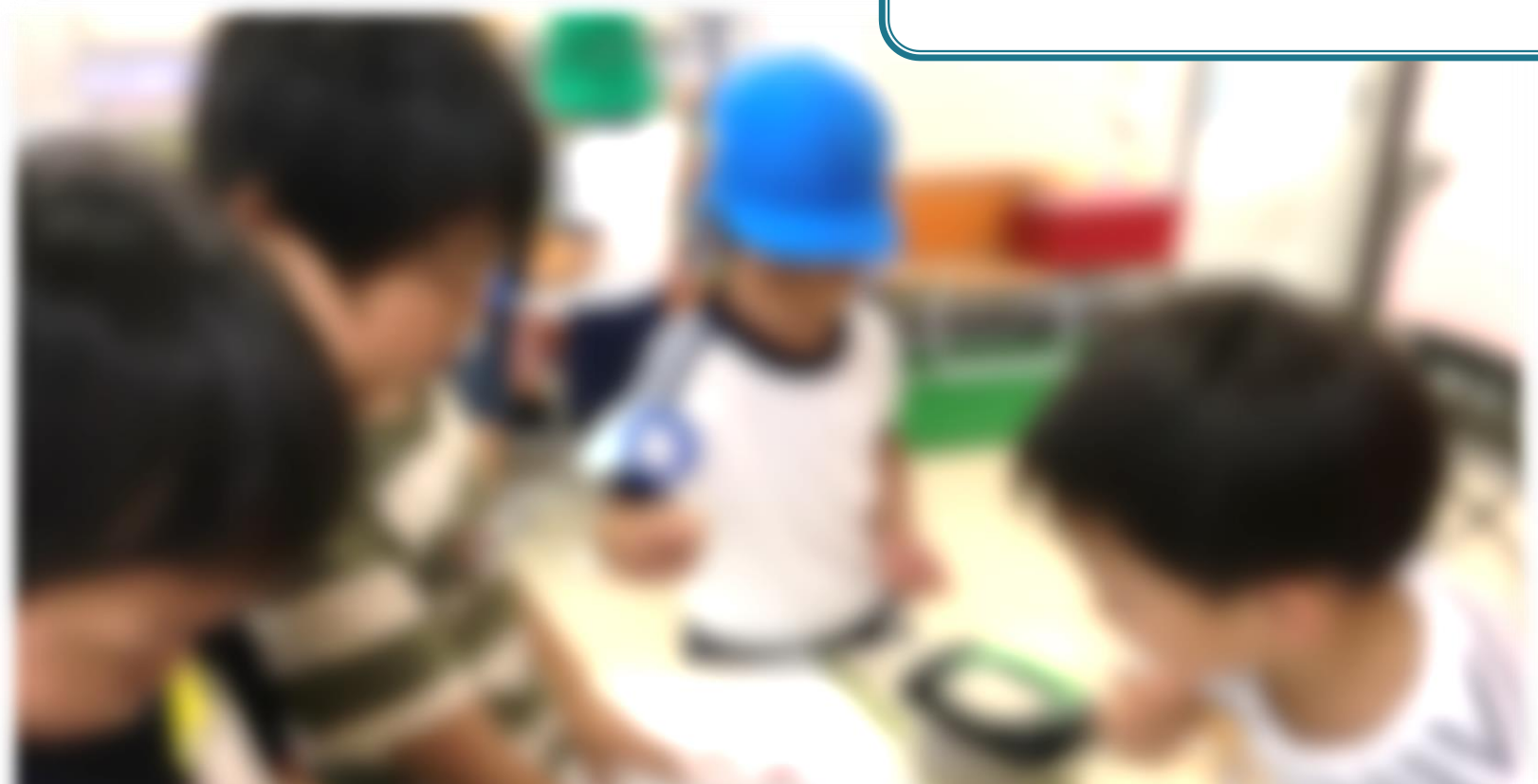


みんなへのおしらせ



なかよしひろば

5歳・1年・2年



5歳・1年・2年の子どもが活動を通して  
互いの良さを見つけ、経験を生かしたり  
友達と協力したりしながら  
探究することの楽しみを味わおう。

# なかよしひろば テーマ



うごくおもちゃ



いろいろ



むかしのおもちゃ



ごっこ



しぜん



おと

# しぜんひろば

自分の「知っていること」が  
本当なのか？  
遊びの中で  
「観察」や「実験」をすることで  
「知っていること」に改めて  
「気づく面白さ」を味わう



# なかよしラボ

3年～6年

自分の興味や関心のある事柄について、ネットや本で調べた情報をそのまま発表する「お調べ学習」



1回きり、追究が続かない、新たな課題が生まれない、  
→知識量は増えるが、生きてはたらく力、新しいものを創造する力の育成になっているだろうか

自分の生活とつなぐ  
この研究が自分にとってどのような意味があるのか  
なぜ、この研究をしようと思うのか

→「自分ごと」の追究をさせたい

小学校3～6年生による異年齢集団を形成し、  
生活や学習の中で見つけた追究課題を各個人がもち、  
それぞれの研究活動を支援し合い、学び合い、追究—発表—ふりかえりを恒常的に行いながら研究を深め、そのプロセスも学ぶ。

# 担当教師の専門性や個性を生かしたラボ編成

- ・さいほうラボ
- ・音と情報ラボ
- ・郷土ラボ
- ・マテマチカラボ
- ・スポーツラボ
- ・つくるラボ
- ・フードラボ
- ・自然ラボ
- ・サイエンスラボ
- ・からだラボ
- ・ことばの表現ラボ
- ・けんこうラボ



各ラボに3～6年生が合わせて二十数名ずつ所属



## <からだラボ>

からだラボ全体でスポーツテストを実施  
全国平均との比較によって、自分の体の特長を知る



「自分の体力の中で劣っているところを鍛える」  
「自分のよさをさらに伸ばす」  
という視点を持った研究テーマの設定

## <ことばの表現ラボ>

劇での演技や漫才をすることを通して  
→「教室で発言できない自分を鍛えたい」  
「自分に自信をつけたい」  
「人を幸せな気持ちに出来る笑いを考えたい」  
自分にとっての意味がある「自分ごと」

# カリキュラム編成の特徴

- ①幼小9年間を、  
生活と対象との関係の質的变化に応じて  
3期で捉える



5歳児には「なかよしタイム」「なかよしひろば」  
両活動の重なりを設ける

# カリキュラム編成の特徴

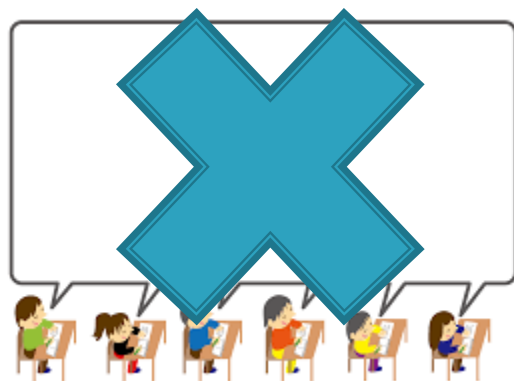
- ②年間を通し「なかよし探究」を継続的に行う
- ③「独自の探究」と「相互の探究」の往還が可能になる学習の「場」を構成する
- ④「めあて」「ふりかえり」によって  
学びの自覚化を促す

# 「生活学習力」 指導の特徴

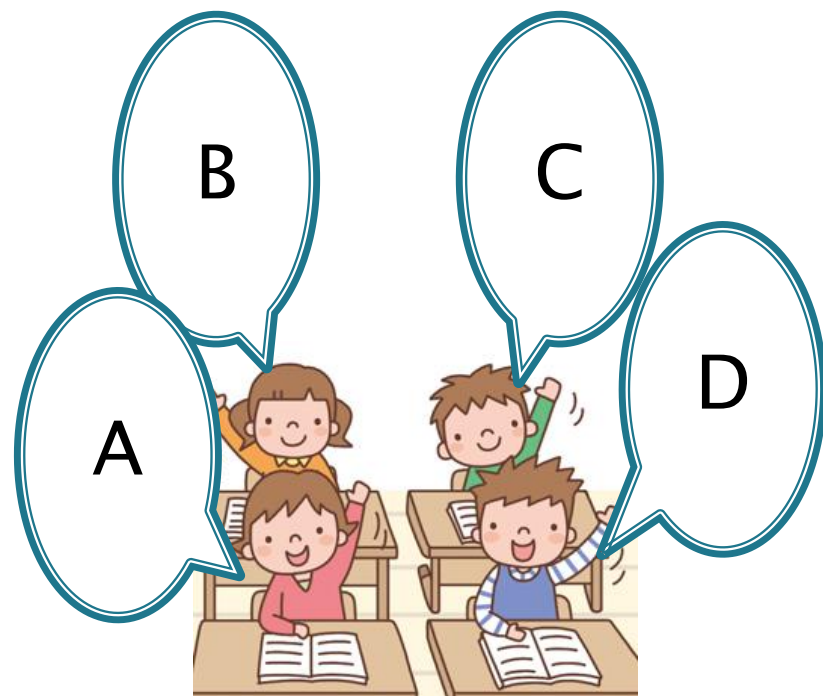
- ①生活そのものを学びの対象とする  
—生活と学習の往還—
- ②どの学年の子どもも  
主体的に活動できるようにする
- ③一人ひとりの探究が深まるようにする
- ④対話やかかわりが生まれ、  
互いの良さに気づくようにする

# 「生活学習力」を育成する評価

## 1. 「学び」とは



学級で一つのめあて



子ども一人ひとりの学びは  
異なるものであり  
個人に帰するもの



# 評価方法



「結果」を点数化する



「過程」をフィードバックする



自己評価・相互評価で  
自律的に学ぶ

# 評価方法開発の方法



教師の「基準」に  
子どもを当てはめる



実践について語り合い、  
子どもの姿から  
「学び」について  
帰納的に抽出し  
評価を可視化する

# 「生活学習力」を育む評価の観点

- ①「学び文化を伝承する」
- ②「追究するに値する対象を選択する」
- ③「独自性・独創性」
- ④「少し先の自分の学びを予想する  
(学習の見通し)」
- ⑤「自分事にする」
- ⑥「課題解決に向けて、工夫することを楽しむ」
- ⑦「自己評価する」
- ⑧「互いに高め合いながら探究する」

# 評価の観点例「学び文化を伝承する」 —初等教育中期(5歳・1年・2年)—

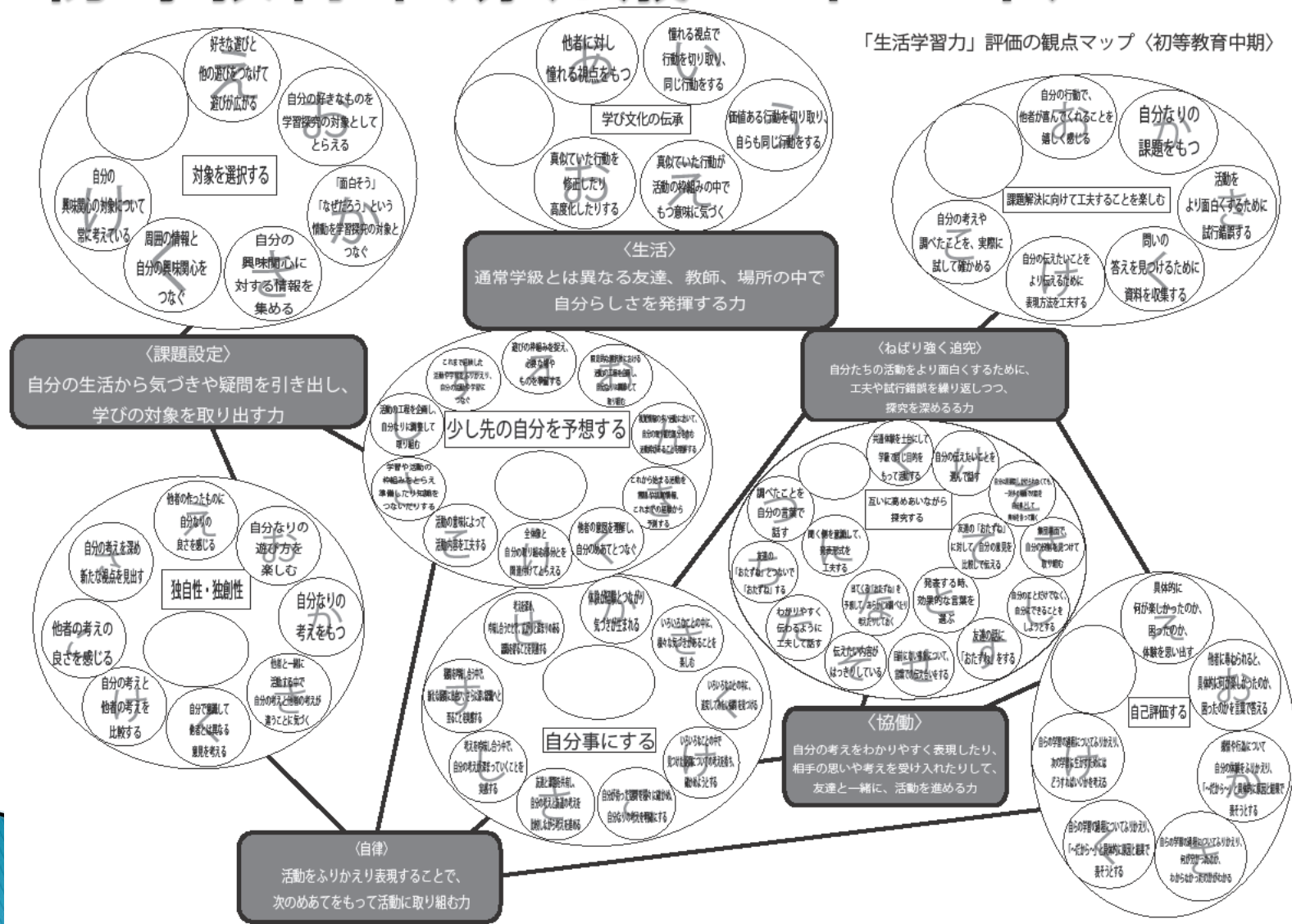
	観点	具体的な子どもの姿(例)	指導の手立て・環境構成(例)
あ	他者に対し憧れる視点をもつ	2年生は走るのが早い、大きな固定遊具でも簡単に登れる、などの態度に5歳児が憧れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの姿が見やすくなるように、グループを編成するなど見るポイントを絞れる環境を構成する。</li> <li>憧れや親しみを持つ機会として、遊びや食事など様々な場面を設ける。</li> </ul>
い	憧れる視点で行動を切り取り、自らも同じ行動をする	異年齢活動において、5歳児が1・2年生の話し方や座り方、物の扱い方など態度の真似をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの姿が見やすくなるように、グループを編成するなど見るポイントを絞れる環境を構成する。</li> <li>真似た態度について意味づけをし、価値づける。</li> <li>不適切な行動を真似る時には、適切な行動の価値づけをし、本人が気づくようにすると共に1・2年生にもフィードバックする。</li> </ul>
う	活動において価値ある行動を切り取り、自らも同じ行動をする	<p>(幼5歳) 活動をふりかえる場面で、5歳児が2年生の書くノートを見ながら、見よう見まねで文字を書く。</p> <p>(小1・2年) 集会の「はじめのことば」の話し方や内容が、事前にしっかりと準備されていることを感じ取り、自分が担当するときにも、しっかりと準備しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの姿が見やすくなるように座る位置を配慮する。</li> <li>子ども自身がとにかくやってみようと思う取り組みそのものを価値づける。</li> <li>教師がモデルを提示しない(教師がモデルを提示することで子どもの中の「正解」が決まってしまうため)。</li> <li>子ども自身が切り取った行動についてその意味を言語化し、認める。</li> </ul> <p>「はじめのことば」をノートに書いてくるようにもとめ、どのような言葉がふさわしいのかを考えさせる。</p> <p>毎日の朝の会の中で、「はじめのことば」を学級のみんに聞いてもらうように働きかける。</p>
え	自分の真似ていた行動が活動の枠組みの中でもつ意味に気づく	<p>(幼5歳) ふりかえり、これまで「楽しかったです」と自分の思いを発表していた5歳児が「～は工夫していてよかったです」と他者を認める。</p> <p>(小1・2年) 「はじめのことば」で話している「めあて」が、集会全体のテーマと連動していることを知り、集会全体をリードしていくことの意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢活動における技術的なわかりやすく見える違いに加え、「堂々と」「丁寧に」など捉えにくい評価の観点について言語化し、子どもが見るポイントを多様化する。</li> <li>単なる真似ではなく、枠組みの中で持つ意味について、周囲の子どもにもわかるように言語化し認める。</li> </ul> <p>係で決めた「めあて」を、学級全体や下学年に伝えさせるようにする。</p> <p>その「めあて」によって、どんな集会をつくらうとしているのかを問いかける。</p>
お	活動の枠組みに合わせて真似ていた行動を修正したり自分らしく表現したり高度化したりする	<p>(幼5歳) 園生活の中で「小学生は自分達で決めていたよね」と、学級での話し合いを自分達で分担して進めようとする。</p> <p>(小1・2年) 集会活動全体をより良いものにするために、何が大切かを考え、集会のテーマに沿った具体的行動を促すための実行力を示そうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの意欲を認め、やってみたいという時には任せ、やってみたらできた、という充実感が味わえるようにする。</li> <li>単なる憧れの行動なのか、意味を理解した行動なのかを見分け、必要な場面を取り入れた文化を表現できるようにする。</li> <li>憧れから身体化されていくように、単発で終わらないよう環境構成する。</li> </ul> <p>集会をより良いものにする事へ向けての、係の働きの良さや係以外の子どもの働きの良さ、学級・学年としての働きの良さを認める。また、具体的に、どのように働こうとするのかの考えを話させる。</p>



# 評価の観点マップ例

## — 初等教育中期 (5歳・1年・2年) —

「生活学習力」評価の観点マップ (初等教育中期)





# 育てたい子どもの姿

## <児童(5年生)>

鳥に対して関心と造詣が深い

4年生時の日記→鳥のことを毎日描いていた

担任「自分や周りの人にも目を向けよう」

→「じゃあ、日記にはそれを書きます。」

鳥の事は野鳥日記に書いていいですか」

毎日2冊の日記。1年以上過ぎたが継続中

昨年度は「鳥の図鑑を創る」(ジャパニーズラボ)

今年度は、その研究を継続できるラボに・・・ (音と情報ラボ)

学級で、「野鳥観察会」を開く

「僕の知らないことを、丁寧に教えてくれた。初めはサッカーをしようと思っていたけれど、思っていたよりも楽しかった。

〇〇君ありがとう。」

ダイサギ *Ardea alba alba* 《サギ科》

● L80~104cm ● 亜種チウダイサギは夏、亜種タイサギは冬。 ● 魚、カエル ● 川、湖沼、湿原、水田

● 本州川~九州ではほとんど(チウダイサギ)

● 夏に見られるのはチウダイサギ(*A. a. albidus*) L85cm。

亜種タイサギより小さい。足は長い。亜種タイサギはアサギくらいの大きさ。口角が夏に水色なのは本種のみ。動くのはゆっくりで、重々しい。足の一部が黄色味を帯びる個体もある。翼開長はトビくらい。

● コーと鼻声。

● アサギ、コサギ、チウサギは小さくて、コサギのあしやびは黄色、チウサギは口はしが短くて、口はしの先端は黒色。アサギは夏鳥で、冬羽の頭はホサボサに見える。カラシラサギは冠羽がホサボサで、迷鳥。



亜種  
タイサギ

冬



亜種  
チウダイサギ

夏

亜種  
タイサギ

冬





3月号

No.01

発行責任者

実は人間は  
カラスを誤解している

人間が誤解している点

①カラスは人をおそう  
②カラスはみんなゴミをあやる。  
③カラスはきたない

④カラスは人をおそう  
⑤カラスはみんなゴミをあやる。  
⑥カラスはきたない

⑦カラスは人をおそう  
⑧カラスはみんなゴミをあやる。  
⑨カラスはきたない



今月の鳥1

チュウヒ  
ツカカ科



L♂48 cm ♀58 cm

W 113 cm ~ 139 cm  
冬鳥。東北地方では夏鳥。カラス大では、積開長(w)はカラスより長い。アジヤの理女によって減少している。

萩葉樹の  
野鳥観察1

カラス

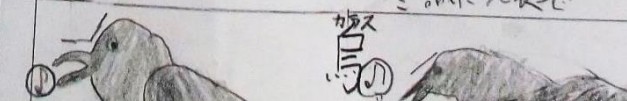
カラスの全長よりモはるかに大きい。(全長11尾から20尾まで) 羽が黒い。尾は長い。嘴は長い。爪は鋭い。カラスは人をおそう。カラスはみんなゴミをあやる。カラスはきたない。

最後に③カラスはきれいな鳥だと誤解している。カラスは人をおそう。カラスはみんなゴミをあやる。カラスはきたない。

鳥はいない

カラスは全長50cm。ハシホソガラスは全長50cm。前者は市街地に多く、後者は農村地に多い。カラスは人をおそう。カラスはみんなゴミをあやる。カラスはきたない。

カラスは人をおそう。カラスはみんなゴミをあやる。カラスはきたない。



モズの未来が危ない

日本全国で留鳥のモズ。最近、数が減っている。モズは肉食性で小鳥やミズシリス、ヤリカニ、昆虫などを食べる。枝にすくはや下をすくももある。

モズは様々な物を食べるが、一番多く食べるのはイナゴだ。手ごうな大きなマダモ、かまゆすいからだ。イナゴは田んぼに生息し、いねを食う。豊稔をまいた、イナゴが減り、モズも減っているのだ。



外来鳥は外国から来て、日本で野生化した鳥だ。ソウシヤウ、トバト、カヒヤウ、カオケロ、ジロカ、ヒヤウ、ゴフ、ク、カケ、ホンセイ、インゴ、ツカカ、ウ、アヒルなど。外来鳥は在来鳥に悪影響を及ぼすため、非当中心に配されてくる。セリ、トバト以外の

外来鳥を見





# 自分らしい学びをつくる

## 生物学的に読む「大造じいさんとガン」

「この物語には多くの偽りがある」



「読者に感動を与えるための

作者の工夫なのか」



「その工夫について読んでいこう。

そして日記や作文など、自分の文章に生かそう」

僕は今日、生物学的視点の事を発言したのですが、そうしたらみんながストーリーを創るためにこのような文にしたと思うという意見が出てきました。いろいろな人の意見を聞くと、視点が変わって面白いので、その様なこともたくさんしてみたいです。

一つの枠にはめられない、自分らしい学びの創造をすることから始め、協働を通して、新たな見方・考え方を獲得していく姿。



「生活学習力」

「他者と協働して新しいものを創造する力」

「なかよし探究」の時間だけの取り組みでは育てられない。

狭い枠にはめられず、自分のやりたいことができる環境が、学校・園の全体にわたって、日常的に行われることが重要である。

## 研究会のおしらせ

平成31年2月8日(金)・9日(土)

附属小学校 学習研究会

「個の学びを支え、つなげる『奈良の学習法』」

—深い学びの授業デザイン—

平成31年2月9日(土)

附属幼稚園 公開保育研究会

「探究するこども 協同するこども」

—幼小一貫した資質・能力を育成する教育課程—